

報告

非特異的腰痛 ー病態と治療戦略ー

札幌医科大学医学部整形外科学講座

教授 山下 敏彦

第93回北海道医学大会総会

常任理事・学術部長 渡邊 直樹

今年度は、札幌医科大学島本和明学長を会頭とし、39の分科会が参加して第93回北海道医学大会が開催された。

9月28日（土）の総会では、北海道医師会賞ならびに北海道知事賞贈呈式、各科トピックス、特別講演などがあった。

今回は、各科トピックス、特別講演の講師の諸先生にお願いし、寄稿していただいた。



山下教授

◆各科トピックス

1. 「非特異的腰痛 ー病態と治療戦略ー」
札幌医科大学医学部整形外科学講座
教授 山下 敏彦
座長 旭川医科大学医学部整形外科学講座
教授 伊藤 浩
2. 「変わるC型肝炎治療 ー現況と将来展望ー」
北海道大学大学院医学研究科消化器内科学
教授 坂本 直哉
座長 札幌医科大学医学部
消化器・免疫・リウマチ内科学講座
教授 篠村 恭久
3. 「扁桃を病巣とした腎・皮膚・骨関節疾患の臨床と病態」
旭川医科大学医学部耳鼻咽喉科・
頭頸部外科学講座 教授 原 保明
座長 北海道大学大学院医学研究科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
教授 福田 諭
4. 「認知症医療の進歩
ーアルツハイマー病を中心にー」
砂川市立病院認知症疾患医療センター長
内海久美子
座長 北海道医師会 常任理事 渡邊 直樹

◆特別講演

「医療と医学の統合」

自治医科大学 学長 永井 良三
座長 第93回北海道医学大会会頭 島本 和明

はじめに

厚生労働科学研究班の調査によると、全国で推定280万人が腰痛を有している。40～60代では約40%が腰痛に悩むとされる。

一方、腰痛の85%は種々の検査により原因を特定できない腰痛である。このような「痛みは腰部に起因するが、下肢に神経障害がなく、重篤な基礎疾患も有しない病態」は非特異的腰痛 (nonspecific low back pain) と呼ばれる¹⁾。わが国では、従来「腰痛症」あるいは「いわゆる腰痛症」などと称されてきた病態である。

急性腰痛としての非特異的腰痛は、いわゆる「ぎっくり腰」など自然軽快する比率が高い予後良好な腰痛である。一方、慢性腰痛としての非特異的腰痛は、心理・社会的要因の関与を伴う難治性の臨床像を呈する場合がある。

2012年に、わが国においても「腰痛診療ガイドライン」²⁾が発刊された。本稿ではガイドラインを踏まえつつ、非特異的腰痛の概念、臨床像、診断・治療に関する最近の考え方について概説する。

1. 概念・予後

非特異的腰痛では、明らかな器質的变化に基づく異常所見が画像や血液検査で認められない。菊地¹⁾は、退行変性による腰部脊椎症所見を伴うものも、神経障害を伴わなければ非特異的腰痛の概念で対応してもよいとしている。これに対し、感染症、腫瘍、骨粗鬆症、骨折、強直性脊椎炎などの炎症性疾患、神経根障害、馬尾症候群などの特異的病理に起因する腰痛は特異的腰痛と定義される。